

香港日本人学校中学部における国際理解・現地理解の実践

前香港日本人学校中学部 教諭

福井県立高志中学校 教諭 丹 尾 靖

キーワード：総合的な学習の時間、現地校との交流活動、現地校交流研修

1. はじめに

香港は、香港島、九龍半島、新界と約200の島で形成されており、人口は約700万人で世界でも最も人口密度が高い地域の1つである。そして、香港日本人学校は、香港島サイドにある香港校（小学部）と中学部、九龍サイド、新界サイドにある大埔校（小学部）から成っている。各校の教育活動や学校行事は日本の学校にとっても近い活動をしており、月1回の3校運営会議をもち、小中での連携も行っている。

各校、それぞれの地域に即した交流活動や現地理解教育を行っており、今回は、香港日本人学校中学部の総合的な学習の時間における国際理解や現地校との交流と教員研修における現地理解の実践の概要を紹介する。

2. 香港日本人学校中学部における国際理解・現地理解

本校では、総合的な学習の時間を中心に調査活動や交流活動を通して、国際理解教育や現地理解を下記のようなプログラムで行っている。また、教員においても現地校との情報交換会や現地理解研修を行っている。

1年生：香港調査活動（春の校外学習） 現地大学生との交流活動（春の校外学習・交流会） マカオ調査活動（宿泊学習） 現地中学生との交流活動（交流会）
2年生：中国の大学生との交流活動（修学旅行） 現地中学生との交流活動（交流会）
3年生：現地大学生との交流活動（大学訪問） 職場体験
全学年：大学生による広東語教室
職 員：現地校への授業参観 現地理解研修

3. 総合的な学習の時間での取り組み

前に挙げたように、総合的な学習の時間において、様々な交流活動や現地理解のための活動を各学年で行っている。ここでは、それらの活動のいくつかについて紹介する。

(1) 1年生の取り組み

①春の校外学習

1年生では、総合的な学習の時間において、「香港を知る」というテーマをもとに1年間活動している。その中で、まず初めにある活動が春の校外学習である。事前活動として、自分たちがお世話になっている香港につい

て調査活動を行う。文化、自然、観光、風土、祭りなどの大テーマからそれぞれのテーマに合った小テーマを自分たちで設定し、パソコンや本を用いて調査活動を行い、全体で発表する。この活動は香港という広い視点での調査活動であり、より香港の街について学ぶということで、春の校外学習において、元朗（ユンロン）の街を現地の中文大学の学生とともに調査活動にでかける。元朗はビルが立ち並ぶ香港の中心街とは違い、自然が豊かで、歴史的な建物がたくさんあり、この散策で、香港の歴史に触れたり、新しい視点で香港の街について考えたりすることができる。元朗については事前調査を行わず、現地で大学生の説明を受けながら現地調査を行う。調査活動は学年で15班編成し、ガイドの大学生は1班に2～3人ついてもらう。大学生は中文大学で日本語を専攻している学生であり、生徒たちのテーマに合わせた説明を行ってもらう。事後学習では、調査してきたことを班毎に模造紙にまとめる活動を行う。

また、1月にはマカオで宿泊学習が行われ、ここにおいてもマカオについてテーマを設定し、事前調査と現地での調査をする。マカオには多くの世界遺産があり、散策する中でマカオの文化や歴史について感じることができる。

②現地の学生との交流

2学期には、春の校外学習でお世話になった中文大学の学生との交流会をもつ。ここでは、日本についてテーマごとに調査を行い、調査した内容を学生に紹介するという活動やそれらのテーマについて学生とディスカッションを行い、日本と香港との共通する部分や違いについて考える。国際理解を深めるということで、自分たちの国についても調査を行った。また、3学期にも学生による広東語教室を開催し、広東語を学ぶ機会ももっている。交流活動が単発的なものではなく、年間を通して継続的に行うことで、現地理解や国際理解ということが深まると考える。

大学生との交流以外にも、現地中学校である桂華山中学校との交流活動を毎年継続的にやっている。2校合わせて10人くらいのグループをつくり、ゲームや大縄跳びなどの活動をし、主に英語を中心に交流を行う。また、本校からは合唱発表、桂華山中学校からは、詩の朗読発表などの学習発表会を行っている。この交流については、毎年継続的にやっているが、交流会のみの単発的な活動であるので、事前や事後において、手紙のやり取りをしたり、学校紹介をしたりなど、年間を通しての継続的な活動をするということが課題であり、来年度につなげていきたいと考える。イベント的な活動でなく、積み上げていく活動が交流活動において大切である。

(2) 2年生の取り組み

3年間の研修の中で、2学年を担当することがなかった。したがって詳細については捉え方が違う部分もあるので、おおまかな紹介だけしておく。

2年生では、修学旅行において現地の大学生との交流をしてきた。マレーシアでの修学旅行を行ってきたが、今年度は中国の西安になった。ここでも、大学生と交流をし、日本の文化、自然、未来といったテーマで大学生に日本を紹介していく活動や西安にあるイスラム街での散策活動を行った。日本の紹介については、1年生の時にも行っているが、1年間で学んできた経験と違った視点で日本を振り返り、それらを中国の学生に紹介する活動である。2年目のこの活動は、生徒たちにとって、日本についての見方や考え方の変化に気づき、伝える相手が違うときに伝え方も変わってくるといったことを学ぶ機会になっている。海外での経験や海外からの視点で日本を見つめるということは、同時に世界を意識していることであり、国際理解教育であると考えている。

また、3学期には現地中学校との交流を宣基中学校とやっている。この交流会では、本校と宣基中学校とが毎年交互に訪問しあっている。お互いの学校紹介をしたり、創作ダンスの発表をしたりなどの交流活動である。現地の中学校の様子を見たり、現地の中学生に日本人学校を知ってもらうことができたりする貴重な活動である。これについても単発的な活動であるので、1年生同様、1年間の中での継続的な活動になることが課題である。

(3) 3年生の取り組み

3年生では、総合的な学習の時間において、「自己を知る」というテーマをもとに1年間活動している。総合的

な学習の時間の3年間のまとめになる活動である。自分をみつめ、将来について考える時期である。そこで、1学期に香港大学の学生と将来についてのディスカッションを行う。大学生がどのような考えで進学し、将来についてのビジョンなどを聞くことができる。国や文化の違いがあっても、進学や就職について学んできた先輩との話は生徒たちにとって興味がある活動である。先輩たちの話を聞くことでもう一度自分のこれからについて見直すきっかけになる。2学期には職場体験学習を行う。香港大学との交流を経て、実際に職場で仕事を体験するこの活動は生徒たちにとって貴重な体験となる。お世話になる企業は、海外で活躍をする日本企業を中心に、飲食店や学校など様々な分野の職種を選べるができる。海外ならではの工夫や難しさなど、違った視点で仕事を見ることができる体験である。2日間という短い期間であるが、働くことの楽しさや厳しさといった働くことの意義を感じることができる。事後学習においては、2日間で経験したことをプレゼンにまとめ、お世話になった企業の方や保護者の参加を募って、発表会を行っている。早い生徒では11月から受験が始まる本校において、高校選択やその先の進路について考えるためのきっかけになる活動になっている。

4. 職員校外研修での取り組み

職員においても、現地理解、国際理解という視点で、現地の大学の日本人の教授の講演会の参加、現地校の授業参観や現地校の教員との意見交換会、などを毎年行っている。平成26年度には、現地のCITY大学の岡田教授から「Education Topic and Policy in Hong Kong」という講演テーマで、香港の教育事情について学び、国際理解教育についての理解を深める活動を行った。香港の教育の特徴や国際比較、政治・経済・歴史の影響を受けての教育や就職活動、香港における日本語教育の価値観のギャップなど内容について学ぶことができた。異なる思考や価値観の枠組みに対する気づきと理解といった効果的な異文化コミュニケーション力を身に付けることが大切であるということを感じることができた。また、生徒たちが交流している桂華山中学校と授業をお互いに参観したり、教育課程についての意見交換会を行った。現地の中学校における授業の様子や教育目標達成のための指導方法を見ることができ、日本人学校と現地との共通点や相違点を知ることができた。このような教員の校外研修をもつことで、教員自身の国際理解教育に対する資質も向上し、それらが生徒たちに還っていくといういい活動になっていると考える。よりよい授業をつくるための力を伸ばしていくために、今後も様々な方との交流をもっていくことは大切なことである。

5. おわりに

香港日本人学校中学部の3年間で、様々な都道府県の先生方のいろいろな指導の仕方や考え方、授業のやり方などを学ぶことができた。生徒たちを育てていくという同じゴールに向けて、いろいろなアプローチの仕方があることを知り、自分のやってきたことと上手にコラボレーションさせていくことで、教師としての力を伸ばすことができたと感じている。そして、生徒たちへの国際理解教育や現地との交流活動を通して、自らの国際理解という考え方を改めて見直すことができた。海外だからこその国際理解教育や現地校との交流というものも確かにあると思うが、最終的には、海外で生活する生徒であっても特別なことをしていくのではなく、日本での教育方針と何も変わることはないと思う。教育活動における過程の中で取り入れることができる手段はたくさんあり、その中で海外ならではの取り組みを有効に活用していくことは必要であり、それらが海外で生活をする生徒の力をより効果的に伸ばしていくことであると思う。最後に、この香港での3年間で学んできたことを、日本の学校に還元し、学びを求めている生徒たちにたくさんのことを伝えていきたいと考える。1つの視点にとらわれないことなく、広い視点をもってこれからもしっかりと研修を積んでいきたいと思う。